



関東連盟 大会規定

試 合

1. 開始準備

- (1) ダッグアウトは抽選の若番号が一塁側。
- (2) 先攻、後攻はメンバー交換時のキャプテンのジャンケンで決める。(メンバー表は4枚提出)
メンバー交換時に両チームの監督、コーチ、スコアラーのいずれか一人がピッチングレコードの確認に立ち会う。
 - ・ 第一試合は、試合開始30分前
 - ・ 第二試合以降は、前の試合が4回を終了した時点
- (3) シートノック時間は5分とする。(ボールまわしを含む)
- (4) 試合前のアップ
練習時間<一塁側チーム>前半5分間トスバッティング・後半5分間キャッチボール。
 <三塁側チーム>前半5分間キャッチボール・後半5分間トスバッティング。
- (5) 試合の開始
守備側チームの各プレーヤーが、それぞれの守備位置につき、攻撃側の第一打者が、バッターボックス内に位置したとき、球審はプレイを宣告し、試合が開始される。
- (6) 試合結果報告書は、グラウンド担当者が記入し、運営委員長へFAXを入れる。

2. 試合の長さ

- (1) 規定試合は7回とする。7回を終了して同点の場合は、決着がつくまで、または審判が打ち切りを宣言するまで延長戦を行う。
- (2) 延長戦の場合、12回終了または試合開始4時間を経過しても勝負が付かないときはサスペンディッドゲームとし、後日に組み入れる。
- (3) 天候等の理由で、試合が続行できなかった場合は、5回をもって成立試合とする。

3. コールドゲーム

- (1) 関東連盟、ローカルルールを適用。
(3回以降20点差、4回以降15点差、5回以降10点差)
- (2) 天候等の理由で5回前に、または5回終了時点で同点のまま試合が続行できなかった場合は、サスペンディッドゲームとし、終了した時点の状態から継続試合を後日に組み入れる。

4. 不戦敗

- (1) 不戦敗の場合は、0-7とする。
- (2) 不戦敗のチームは、順位決定で同率のチームがある場合は、下位になる。



関東連盟 大会規定

選 手

1. 登 録

- (1) 統一登録用紙で、抽選日の抽選前までに連盟事務局へ提出する。

2. リエントリー

- (1) スターティングラインアップに入っている選手は、代わりの選手と入れ替わった後、一度だけ試合に戻ることができる。
(先発9人に限り、一度交代しても再び一度だけ試合に戻ることができる)
- (2) 選手は元の打順に戻る。
(先発投手は再び試合に戻れるが、投手として戻ることはいできない)

3. 臨時代走

- (1) 打者が死球を受けたときの『ケガの治療』や頭部に死球を受けた場合、休養時間を確保するために、打者走者に代わり臨時代走を認める。
(リエントリーとは無関係、出場資格のある18名の中から臨時代走)
- (2) 本塁打、または死球で安全進塁権が認められた場合、走者が不慮の事故でその安全進塁権を行使できなければその場から臨時代走できる。
- (3) 但し、自らの責任による治療目的の退場については、通常の選手交代となる。

4. その他

- (1) 試合中に内野でハドルを組む場合は、監督かコーチの他6人以内とする。
- (2) コーチボックスの走塁コーチはインニングの途中で交代できない。
- (3) 二塁ベース到達時のエルボーガード、フットガード等の着脱のためのタイムは認める。
(ただし速やかにベースコーチがとりにいくこと)
- (4) 試合予定開始時刻から15分を経過しても、ユニホームを着用した選手が9名そろわないチーム、または、試合中に何らかの理由でユニホームを着用した選手が9名そろわないチームは没収試合とする。(ポニー規則 第18章 罰則 B)
- (5) 違反選手起用に対する罰則は、選手を対象としない。
- (6) 選手の茶髪での出場は認めない。



関東連盟 大会規定

投手・捕手・用具

1. 投手

- (1) 投手は1試合において、7イニングを越えて投球することはできない。
- (2) 投手は所属チームの連続する2試合で10イニングを越えて投球することはできない。
- (3) 投手の投球イニングを数えるときは、打者に対する1球、走者に対する送球も含まれる。
(但し、アピールのための送球は含まれない)
- (4) 投手の準備投球は6球、4球とする。(1分以内)
- (5) 打者を狙って投球することを禁止する。
 - ① 捕手がインコースにボールを要求する場合、グラブの位置はストライクゾーンまでとする。
 - ② インコース高めには絶対にウエストボールを投げない。もしも投球がそれで頭部に投球が当たったと審判員が判断した場合は、投手は交代しなければならない。
- (6) ピッチングレコード
 - ① スーパーポニー大会予選から関東決勝ブロックへ進むチームは継続とする。
 - ② 関東決勝ブロックから決勝トーナメントへ進むチームは継続とする。
 - ③ スーパーポニー大会予選からポニー大会予選に進むチームは継続せず、新規とする。
 - ④ メンバー表交換時にピッチングレコード表が無く、確認できない場合は、メンバー表に記載されている選手全員が、前試合で7回の投球をしたものとみなす。
 - ⑤ 不戦勝、不戦敗直後の試合のピッチングレコードは、不戦勝、不戦敗直前のものを対象とする。

注、サスペンディッドゲームのイニング数は、日程の都合上、そのゲームの継続試合との間に別の成立試合が入った場合、後続の次の試合の合計イニングから除く。
ただし、トーナメントゲームの場合は、これを適用しない。

試合1	成立試合	4回	
試合2A	サスペンディッド	6回	試合2のイニングは、試合1と合わせて10
試合3	成立試合	6回	試合3は試合1と合わせて10
試合2B	継続試合	1回	-2Aの投球回 試合2Bは試合2Aを引き継ぐ
試合4	成立試合	4回	試合4は試合3と合わせて10

2. 捕手

- (1) 捕手といえども走塁線をふさいではいけない。
- (2) 保守用防護用具は必ず装着すること。(投手のウォームアップを含む)
- (3) セーフティキャップは必ず装着すること。(控えの捕手を含む)

3. 用具

- (1) 国内大会での使用バットは、協会本部指定社製バットに限る。
- (2) ポニー規則 第8章 用具 H.(1) (膝をカバーしない短パンや、くるぶしまであるズボン形の製品は禁止)を厳守すること。
- (3) 同一リーグで複数のチームを出場させる場合のユニホームは、何らかの方法で、あきらかにチームの違いが判るようにしなければならない。
- (4) すべり止めロジンは、グラウンドホストチームの負担とし、両チームは同一の物を使用する。



関東連盟 大会規定

監督・コーチ・審判員

1. 監督・コーチ

- (1) 公式戦において代表の監督、またはコーチとしての登録を認めない。
- (2) 監督・コーチは審判員の兼務を認めない。
- (3) 走塁コーチはインニング途中でのコーチボックス交代を認めない。
- (4) ハーフインニングに1回を越えてタイムアウトの要求はできない。
- (5) 審判員の判定に基づくプレー上の抗議は認めない。抗議が規則の解釈に基づくものである場合は、デビジョンディレクターまたは大会審判長に異議申し立てができる。抗議の対象となる事項を審判員、相手監督が立会いのもとに明記し、試合はそのまま続行し完了させる。
- (6) 公式に試合が終了する以前において、いかなる状況下にあってもチームを球場から引き上げさせた監督またはコーチは退場処分とする。(抗議権喪失)
- (7) 監督は自チームの行動、野球規則の遵守、審判員への服従に関しての全責任を負う。
- (8) 監督・コーチはチームの統括として、グランドマナーを守らせる責任を持つ。
- (9) ダッグアウト内は、ユニホーム着用大人3名、ノン着用スコアラ1名とする。
- (10) 登録書に記載されている監督、コーチが監督を務める場合は、変更届けは必要ない。登録書に記載されていない人が監督を務める場合は、統一届出用紙を使用して試合開始30分前までに責任審判員へ提出する。
- (11) 監督は複数のチームの監督に登録できない。
- (12) 監督・コーチの茶髪での参加は認めない。

2. 審判員

- (1) 審判員は、定められた試合のメンバー表交換前に集合しなければならない。
- (2) 審判員は、協会指定の服、帽子、トーナメントエムブレムを着用する。
- (3) 審判員は次のことを心がまえとする。
 - ① 全ての活動は子供たちのために
 - ② 常に向上心を持って
 - ③ 今日の反省、明日の実行
- (4) 公式戦において次のことを確認しなければならない。
 - ① 本部発行の会員証による出場選手の確認
 - ② ダッグアウト入り制限人数の確認
選手18名、ユニホーム着用の監督・コーチ3名、スコアラ1名以内
 - ③ 規定に基づくユニホーム及び用具の確認
 - ④ 規定に基づく登板投手の確認
- (5) 責任審判員は試合前のウォーミングアップ・シートノック開始等の時間の指示を行う。

※ その他の規定はポニーベースボール 公認 野球規則に基づく。



関東連盟 大会規定

追記

1. 天候不順等で予定試合が中止の場合

(1) グラウンド状況の決定は、グラウンド担当者が行う。

(2) 予定試合の中止の連絡

①グラウンド担当者が試合予定チームと責任審判員に連絡をする。

②責任審判員は単独行動する連盟審判員に連絡をする。

③各チームは帯同する審判員に連絡をする。

2. 第二試合以降のチームがピッチング練習で、ブルペンを使用する場合は、

行われている試合が4回を終了してから使用を許可する。

(必ず試合中のチームの了解を得ること)

3. 試合中グラウンド内でピッチング練習を行う場合は、ヘルメット、グラブを着用した補助要員をつける。

4. ネクスト・バッタースボックス内での素振りを禁止する。

5. 選手の数がいけない等の理由で控えの捕手ができない場合は、イニング始めの投球練習時の

捕手は成人のコーチが行っても良い。

6. ボールボーイ、バットボーイはベンチ入り選手(18名以内)が行う。

7. サスペンディッドの場合

	1	2	3	4	5	6	7	計
A	0	0	0	0	0	4x		
B	0	0	0	0	2			

a. 6回表攻撃中(攻撃が終了していない)の場合はサスペンディッドとし、後日継続試合。

	1	2	3	4	5	6	7	計
A	0	0	0	0	0	4		
B	0	0	0	0	2	x		

b. 6回表の攻撃が終了して、裏の攻撃が始まる前はサスペンディッドとし、後日継続試合。

	1	2	3	4	5	6	7	計
A	0	0	0	0	0	4		
B	0	0	0	0	2	0x		

c. 6回表の攻撃が終了して、裏の攻撃途中の場合はサスペンディッドとし、後日継続試合。

	1	2	3	4	5	6	7	計
A	0	0	0	0	0	0		0
B	0	0	0	0	2	x		2

d. 6回表の攻撃が終了して、裏のチームが勝っている場合はコールドゲーム(成立試合)。